



JAPAN
MEDIA ARTS
FESTIVAL

文化庁
メディア
芸術祭
松山展

MOVE

メディアで広がる身体表現

2014・9・5 [金]—21 [日]

Open 9:40 >>> 18:00 (展示室入場は17:30まで)

Close 9/8 [月]・16 [火]

愛媛県美術館 愛媛県松山市堀之内 特別展示室-1.2.3

入場無料 <http://mediaarts.kaiworks.com/>

プレスリリース資料

2014年8月25日

文化庁メディア芸術祭松山展



メディアアート、映像、ゲーム、ウェブ、アニメーション、マンガ作品等の「メディア芸術」を総合的に展示・上映する展覧会を愛媛県美術館にて開催いたします。

文化庁メディア芸術祭の受賞作品を紹介する展覧会「文化庁メディア芸術祭松山展～ MOVE ——メディアで拡がる身体表現」では、インタラクティブアート、映像、ゲーム、ウェブ、アニメーション、マンガ等の優れたメディア芸術作品を一同に展示・上映します。ダンスを映像で再現する不思議な芸術作品や、脳波で動く玩具（ガジェット）、話題のマンガ作品の原画など 18 点の出展作品を通じ、常に動き続けるメディア芸術の創造性を紹介します。

■開催概要

事業名称	文化庁メディア芸術祭 松山展
テーマ	「MOVE——メディアで拡がる身体表現」
会期	2014年9月5日(金)～21日(日)
会場	愛媛県美術館 2F 特別展示室 1.2.3 (愛媛県松山市堀之内)
開館時間	9:40～18:00 (展示室入室は17:30まで)
休館日	9月8日(月)、16日(火)
URL	http://mediaarts.kaiworks.com/
入場料	無料
主催	 文化庁
後援	愛媛県、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、松山商工会議所、公益社団法人愛媛能楽協会、愛媛新聞社、南海放送、テレビ愛媛、FM愛媛
協力	愛媛県美術館、松山市、道後温泉本館改築120周年記念事業実行委員会、NPO法人シアターネットワークえひめ、河原学園河原デザイン・アート専門学校、学校法人松山ビジネスカレッジ
お問合せ先	文化庁メディア芸術祭 松山展事務局 (Kai Works (株)) TEL/FAX : 089-922-1144 E-mail: media_arts01@kaiworks.com

文化庁
メディア
芸術祭
松山展

MOVE
メディアで広がる身体表現

松山市は、松山藩を統治していた松平家が「能」に親しんでいたことから、能楽の盛んな土地柄です。現在でも市内では能舞台の体験講座や舞囃子観覧が開かれ、能楽に親しむ習慣は、現代のパフォーミングアーツへの関心にも強く結びついていると言えます。

「MOVE —メディアで広がる身体表現」と題した本展は、デジタルテクノロジーを駆使した芸術表現やアニメーションやマンガといった同時代の芸術作品が見せる身体表現のあり方をテーマとしています。身体や動きの描写力、メディアテクノロジーによって気づく私たちの新たな身体感覚など、現代における身体表現の多様性を横断的に紹介します。

動くものを見る。動く音を聞く。身体で体感する。心で感じる。

新しいメディアとともに発展する表現＝「メディア芸術」に
ある新しい感覚、感動、流動、波動——。

多様化する創造性と、変化し続ける感覚＝MOVE を体感する展覧会です。

文化庁メディア芸術祭とは

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。

また、文化庁では、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を国内外で広く紹介する多彩な事業を実施しています。海外・国内展開や創作活動支援といった関連事業を通じ、次代を見据えたフェスティバルを目指しています。



昨年度文化庁メディア芸術祭受賞作品展
(国立新美術館／東京・六本木)

■マンガ作品

ジョジョリオン—ジョジョの奇妙な冒険 Part8—

荒木 飛呂彦

昨年度〔第17回〕文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞作品 M 県 S 市杜王町。震災で隆起してできた土地である通称「壁の目」で、一人の青年が発見された。記憶を失っていた彼は「東方定助^{ひがしかたじょうすけ}」と名づけられ、さまざまな手がかりを元に自らの素性を探る。東方家の秘密と思惑、杜王町で起きた過去の事件、定助の素性をたどる重要な手がかりとなる「吉良吉影」なる人物……さまざまな謎に定助は巻き込まれる。緻密なストーリー構成、超能力を目に見える形で表現することでマンガ表現に革命をもたらした概念“スタンド”によるバトルに加え、サスペンスにも更なる磨きをかけ、多くの読者を惹きつけた。連載28年目を迎えた「ジョジョの奇妙な冒険」シリーズの第8部。

作品世界を楽しめる展示が 全国3都市（松山・十勝帯広・秋田）へ巡回！

今年度、松山展の他、十勝帯広（北海道）、秋田で開催する文化庁メディア芸術祭関連事業において、昨年度〔第17回〕文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞作品である荒木飛呂彦氏の「ジョジョリオン—ジョジョの奇妙な冒険 Part8—」の直筆マンガ原稿等を含む展示が巡回します。

本企画は、「文化庁メディア芸術祭地方展（主催：文化庁）」の一部として実施されるもので、各地域独自の企画展のなかに、「ジョジョリオン」の作品世界を楽しめる展示が登場します。

展示テーマは「記憶を辿る旅」。記憶喪失の主人公「東方定助^{ひがしかたじょうすけ}」が自身の正体を探るこれまでのストーリーを、色鮮やかなイラストを再現したパネルで紹介するほか、直筆マンガ原稿（原画）や、制作風景を収録した映像等も展示します。多数の原画をはじめ、普段見ることのできない貴重な資料をあわせて公開する本展を通じ、マンガ表現の魅力をご紹介します。



©LUCKY LANDCOMMUNICATIONS/SHUEISHA

松山展以降の文化庁メディア芸術祭地方展 開催概要

○文化庁メディア芸術祭十勝帯広展「メディア芸術の林間学校」

会期：10月1日（水）～13日（月・祝）会場：十勝千年の森、帯広市図書館

※「ジョジョリオン」展示会場は帯広市図書館 休館日：10月6日（月）

企画・運営：株式会社テレビマンユニオン／株式会社十勝毎日新聞（Email：rinkan_tokachi@tvu.co.jp）

○文化庁メディア芸術祭秋田展「DIG∞AKITA／メディア芸術、あきた」

会期：仙北市10月10日（金）～20日（月・祝）会場：なかの太田家の蔵

秋田市10月25日（土）～11月3日（月・祝）会場：アトリオン

※「ジョジョリオン」展示会場は秋田市・アトリオン

企画・運営：秋田県広告業協会（Email：media_arts@akita-stage.com）

展示・上映作品 (予定)

MOVE

■マンガ作品 展示物：マンガ複製画

バガボンド

井上 雄彦 (原作：吉川 英治)

第 4 回マンガ部門大賞

ヘルタースケルター

岡崎 京子

第 7 回マンガ部門優秀賞

海獣の子供

五十嵐 大介

第 13 回マンガ部門優秀賞

■マンガ作品 展示物：マンガ原画

孤高の人

坂本 眞一 (原案：新田 次郎)

第 14 回マンガ部門優秀賞

山岳小説の金字塔『孤高の人』が、現代を舞台によみがえる。孤独な青年・森文太郎はクライミングと出会い、極限の登山に「生きる」感覚を求めて、人類未踏の氷壁・K2 東壁を目指す。だが文太郎には、日常でも山の中でもさまざまな困難が降りかかってくる。困難に遭いながらも文太郎は、ただ己の目標に向かって、一步一步進んで行く。



© 坂本 眞一／原案・新田次郎著『孤高の人』／集英社

■映像作品 展示物：映像作品の上映・関連資料

マイブリッジの糸

山村 浩二

第 15 回アニメーション部門優秀賞

1878 年に馬の連続動作を撮影することに成功し、映画の誕生に多大な影響を及ぼした写真家エドワード・マイブリッジの人生と、現代の母と娘の情景を描き、時空を超えた2つの世界の対比によって「時間」に思いをめぐらせるアニメーション。カリフォルニアと東京、19 世紀と 21 世紀を行き交いながら、マイブリッジの波乱に満ちた人生を幻想的に描く一方、慈愛にあふれた母娘の光景が印象的に登場する。「時間は止められるのか？」という問いをモチーフとした、日本とカナダの国際共同制作作品。



© 2011 National Film Board of Canada / NHK / Polygon Pictures

カイバ

湯浅 政明

第 12 回アニメーション部門優秀賞

ようこそぼくです選

姫田 真武

第 17 回アニメーション部門新人賞

Airy Me

久野 遥子

第 17 回アニメーション部門新人賞

展示・上映作品 (予定)

MOVE

■映像作品 展示物：映像作品の上映・関連資料

BIND DRIVE

佐藤 雅晴

第 15 回アート部門審査委員会推薦作品

演歌の楽曲を題材に、フォトショップとペンタブレットを使用して描かれたデジタルアニメーション。作家の住む茨城県取手市の情景を舞台に、天使と悪魔の姿をした男女が織りなすメロドラマが始まりも終わりもないループ構造で展開される。雨の降り続ける田んぼのあぜ道や古びた家並みなど、日本の地方都市の寂れた風景を鋭い観察眼と卓越した画力で描き出し、妙な違和感や不穏さの漂う演歌的な世界観を演出している。



© 佐藤雅晴

■映像作品 展示物：映像作品の上映

トラヴィス「ムーヴィング」

Tom WRIGGLESWORTH / Matt ROBINSON

第 17 回アート部門優秀賞

イギリスのバンド「トラヴィス」のミュージックビデオ。息が白く見える低い気温の中で、バンドメンバーが歌う息に、プロジェクターでアニメーションを投影し、撮影されている。特殊技術を使わないカメラの撮影というアナログな手法で、ヴィジュアル・エフェクトのような効果を生み出すことに成功している。アニメーションは、それぞれのバージョンで息をしては微調整を繰り返し、最も鮮明な映像を求めて何百ものバリエーションを試作しながら数週間かけてじっくりと作成された。



©2013 Red Telephone Box

■実機展示 展示物：ガジェット・関連資料

necomimi

neurowear

第 16 回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品

脳波を使った新しいコミュニケーションツール。装着者が集中すると耳がピンと立ち、リラックスするとふにやっと垂れるなど、耳の動きでキモチを伝える。neurowear によって企画され、2011 年春のプロトタイプ発表と同時に世界中で話題となり、2012 年春、ニューロスカイ社によって商品化された。



©DENTSU INC./NeuroSky, Inc

■実機展示 展示物：ゲーム

rain

池田 佑基 / 鈴田 健

第 17 回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品

姿を失った少年少女の物語を描く本作。子どもの頃に抱いた妄想や、誰かに追いかけられる嫌な夢、恋にも満たない淡い思い……。ゲームプレイや音楽、演出は、そのような記憶をユーザーが追体験することを狙って制作されている。



©2013 Sony Computer Entertainment Inc.

展示・上映作品 (予定)

MOVE

■実機展示 展示物：フィギュア

動く仏像フィギュア リボルテック タケヤ 竹谷 隆之

■実機展示 展示物：作品集・関連資料

愉快的機械 岸 啓介

第3回デジタルアート(ノンインタラクティブ)部門大賞

■インタラクティブアート 展示物：インスタレーション

skinslides 大脇 理智

第16回アート部門審査委員会推薦作品

「ダンサーを永久保存するためのインターフェイス」として考案されたダンス映像インスタレーション。視覚的な鑑賞だけでなく、肌で触れたり、空気を感じたりといった皮膚感覚的な鑑賞方法を探求する。また、自動生成されるダンスによってダンサーという存在を再定義する。



©RichiOwaki, Alessio Silvestrin

■インタラクティブアート 展示物：プロジェクト紹介

The EyeWriter

Zach LIEBERMAN / Evan ROTH /
James POWDERLY / Theo WATSON /
Chris SUGRUE / Tony TEMPT1

第14回アート部門優秀賞

■スクリーン上映 上映日時等の詳細は、P7 イベント欄をご確認ください。

サカサマのパテマ 吉浦 康裕

第17回アニメーション部門優秀賞

■マンガライブラリー 16 作品 会場内のライブラリーにて展示。過去の受賞作品のマンガをご自由にご覧頂けます。

MONSTER	浦沢 直樹	第1回優秀賞
リアル	井上 雄彦	第5回優秀賞
神々の山嶺	谷口 ジロー、夢枕 獏	第5回優秀賞
ブラックジャックによろしく	佐藤 秀峰	第6回優秀賞
夕凧の街 桜の国	こうの 史代	第8回大賞
PLUTO	浦沢 直樹	第9回優秀賞
太陽の黙示録	かわぐち かいじ	第10回大賞
竹光侍	松本 大洋	第11回優秀賞
天顕祭	白井 弓子	第11回奨励賞
テルマエ・ロマエ	ヤマザキ マリ	第15回審査委員会推薦作品
進撃の巨人	諫山 創	第15回審査委員会推薦作品
宇宙兄弟	小山 宙哉	第15回審査委員会推薦作品
アイムアヒーロー	花沢 健吾	第15回審査委員会推薦作品
岳 みんなの山	石塚 真一	第16回優秀賞
ちはやふる	末次 由紀	第16回審査委員会推薦作品
壬生義士伝	浅田 次郎	第16回審査委員会推薦作品

アーティストトーク

9月6日(土)13:00～15:00

会場 愛媛県美術館 特別展示室-2「skinslides」前

出演者 大脇 理智(出展作品「skinslides」作者) モーター 徳永 高志(文化庁メディア芸術祭松山展総合監修)

作者による解説のもと展示作品「skinslides」を体験する鑑賞ツアーを開催。終了後には、松山展のテーマ「MOVEーメディアで広がる身体表現」を考えるトークも開催。

TORANOKO Performing Arts Company によるメディアパフォーマンス

9月7日(日) 11:30～/15:00～

会場 愛媛県美術館 特別展示室-1.2.3

出演者 TORANOKO Performing Arts Company

『踊りたいけど踊れない』(原作:寺山 修司)のファンタジーな世界を、TORANOKO の子供たちの身体表現でもって創りだす。映像や音楽を身体で感じる、想像力を刺激されるパフォーマンスをお楽しみください。



パフォーマンスイメージ

「サカサマのパテマ」上映会

9月13日(土)13:30～/15日(月・祝)13:30～

会場 愛媛県美術館 研修室

定員 各回先着45名

第17回アニメーション部門優秀賞「サカサマのパテマ」の上映会。吉浦康裕による、視界に高く深く広がり、空から地下に至る大空間を舞台にした少女と少年の出会いと冒険の物語。



©Yasuhiro YOSHIURA / Sakasama Film Committee 2013

「マッツとヤンマとモブリさん」上映会と制作スタッフトークイベント

9月21日(日) 13:00～15:00

会場 愛媛県美術館 研修室

出演者 田中 淳一(株式会社アサツー ディ・ケイ)・涌井 剛(株式会社ロボット)

定員 先着45名

同時上映:加藤 久仁生/第12回アニメーション部門大賞「つみきのいえ」等

株式会社ロボットのメディア芸術祭受賞作品の紹介と松山発オリジナルアニメ「マッツとヤンマとモブリさん」を上映。あわせて、制作スタッフが作品の解説や制作秘話をお話します。

同時開催 学生作品展

9月3日(水)～7日(日) 9:40～18:00

会場 愛媛県美術館 南館2F

出展者 学校法人河原学園 河原デザイン・アート専門学校、学校法人松山ビジネスカレッジ(MBC)

主催 松山市

お問合せ 松山市役所地域経済課 TEL:089-948-6710

松山市内のメディア芸術作品に関連のある専門学校による作品展示が行われます。

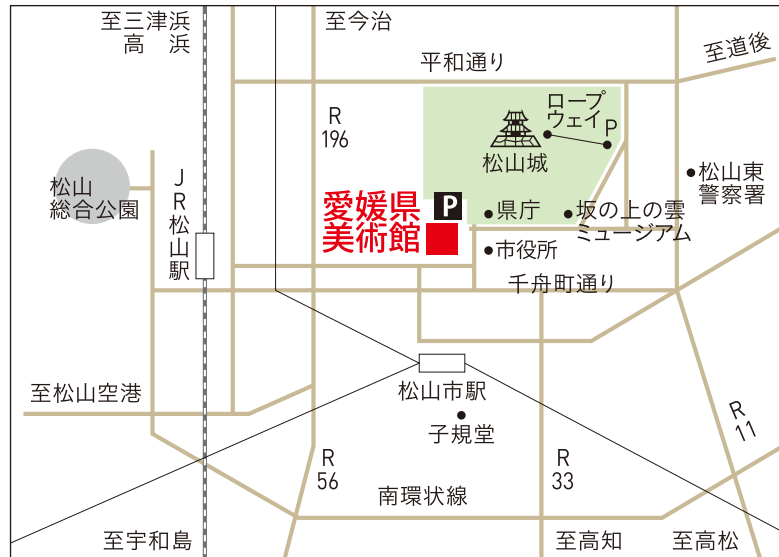
会場へのアクセス

MOVE



〒790-0007 愛媛県松山市堀之内

TEL:089-932-0010 FAX:089-932-0511 HP:<http://www.ehime-art.jp/>



交通案内

駐車場は、県庁西駐車場（2時間無料）をご利用できますが、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関等のご利用をお願いします。

■ JR 松山駅前より道後温泉または市駅前行き市内電車で5分。

「南堀端（愛媛県美術館前）」下車、徒歩1分。

■ 松山観光港よりリムジンバスで30分。「市駅」下車、徒歩5分。

■ 松山空港より車で20分。

お問合せ

MOVE

文化庁メディア芸術祭松山展では、プレス内覧会・説明会等はありません。

取材等ご希望の場合はプレス担当者をご案内させていただきます。

取材日がお決まりの場合は事務局までご連絡ください。

文化庁メディア芸術祭 松山展事務局 (KaiWorks 株)

〒790-0811 愛媛県松山市本町 5-1-10

TEL/FAX: 089-922-1144

E-Mail: media_arts01@kaiworks.com